

平成 26 年度加西市一般会計の決算認定 について（議案第 71 号）

質 疑



松尾 幸宏 議員
(自民の風・誠真会)

問 平成 23 年に、持続可能な財政基盤の確立・行政サービスの向上と効率的な行政運営・そして第 5 次加西市総合計画に基づいての 5 万人都市再生に向けた総合的な施策の展開を目指す、10 年間の計画「行財政改革プラン」が出されたが、この計画に基づき目標に沿った形での 26 年度決算ができたのか。

答 当初、26 年度末の財政調整基金と減債基金の合計を 5 億 7,600 万円と見込んでいました。計画後、歳入では市税及び地方消費税交付金などの収入がふ

え、歳出では人件費や扶助費が計画よりも低く抑えられており、直近の 26 年度のプラン見直しにおける基金残高の目標値 19 億円に対して決算では 26 億 2,000 万円となっています。

また、企業会計を含む全会計の市債残高は、目標値 433 億円に対して 427 億 5,000 万円、実質公債費比率は目標値 13.2%に対して 12.4%と、いずれも計画値よりも改善されており、おおむねプランに沿った決算となっているが、当初の計画とのかい離が出てきているため、現在見直し作業を進めている段階です。

問 実質収支額は 6,100 万円の黒字だが、単年度収支額では 1 億 5,000 万円の赤字である。これは前年度の繰越金 2 億 1,100 万円が 6,100 万円になってしまったということだが、私は実質赤字

と考える。また、歳入には各基金から合計 1 億 1,500 万円の支出があり、今後危機感を持った対応が必要ではないか。

答 この意味は、25 年度の実質収支額の黒字がもし仮にないとなれば、26 年度は 1 億 5,000 万円の赤字になっていたということです。余剰金は、年々若干の増減があり、市全体の財政状況として、この 1 億 5,000 万円の赤字が即問題ということではない。しかし、26 年度は一定の基金の取り崩しもあり、決して余裕のある財政状況ではないので、財政プランの見直しの中で、新たな節度ある財政運営の計画を立てていきたいと考えています。

■その他の質問項目

・ 議案第 80 号

障害者福祉について

一般質問



中右 憲利 議員
(21 政会)

問 ある障害者団体がすぱーく加西でグラウンドゴルフをされているが、半額減免があるものの費用がかさむとのこと。アクアスや多目的グラウンドでは幾つかの団体が全額免除になっており、障害者団体も対象になっていると思うがいかがか。

答 障害者手帳所持者による体育施設利用は 5 割減免、また、多目的グラウンド、アクアスでは地域や施設に貢献している団体を全額免除としています。障害者団体についても今後全額免除で対応します。

問 ある身体障害者団体がグラウンドゴルフ大会を市民グラウンドでしているが、駐車場から入口までが遠く、車いす等での移動がつらいため、つい入口付近の道路に自動車を置いてしまうが、管理職員が来て移動を命じられるとのこと。年に一回ぐらいの大会なので配慮があつていいと思うがいかがか。

答 指定管理者には、駐車場外に車をとめないように指導の徹底をお願いしているところですが、障害者団体の使用については配慮が必要と認識していません。そこで、利用届の提出時に、障がい者の皆様の大会である旨をお知らせいただくことで、駐車許可証を配布する等可能な配慮をさせていただきます。

問 知的障がいのある方が一般の人と一緒に健診を受けるとパニックになることがあるた

め、保護者が受診させるのをためらうことがあるそうだが、市として何らかの対応ができないか。

答 障害の状況や希望される健診内容によって必要な対応が異なるため、事前にご相談をいただき、一般の方と時間帯を分ける等の工夫を検討します。相談しやすい体制づくりとして、健康課、地域福祉課が連携できるよう情報共有に努めてまいります。

要望 ハンディを負っている方々への細かな配慮をできるだけお願いしたい。

■その他の質問事項

- ・ 市内基幹道路の整備について
- ・ 幼保の統合について
- ・ 体育施設について